

道徳学習指導案

指導者 住本真弓

- 1 日 時 平成25年6月21日(金) 第5校時
- 2 学 年 第1学年 男子8名 女子4名 計12名
- 3 主題名 やるべきことはしっかりと (1-(2) 勤勉・努力)
- 4 資料名 コロのさんぼ (出典「心に響く道徳学習教材集」広島県教育委員会 一部改作)
- 5 主題設定の理由

(児童の実態について)

- ・本学級の児童は、入学から約2ヶ月半が過ぎ、学校生活にも慣れ、学習に遊びに元気いっぱい取り組んでいる。どんな1年生になりたいかでは、「がんばる」の項目が10票で一番多く、学級目標に入れることを話し合う中で、入れることになった。
- ・様々なことにがんばろうとする気持ちはあるものの、次のような実態があり、もっとよくなるよう本教材を活用していきたい。
 - ① 自分の興味関心が次から次へと移り、自分が本当にしなくてはいけないことが最後までできないことが多い。
 - ② 行動の動機づけが、親や教師が言うからという他律的で、なぜそうするのか、そうするとこんなよさがあるからするという自律的な要素が少ない。
- ・そこで、努力しているプロセスを評価することを日々の様々な生活場面で大切にしてきた。



(主題について)

- ・児童は入学前と違い、内発的な動機づけがもとなる遊びだけではなく、がんばりやがまんを必要とする仕事や勉強をすることになる。そのためには、勤勉や努力の価値のよさを感じる必要がある。
- ・この時期の発達段階では、
 - ① 新しいことが身につく喜び
 - ② 周囲の大人のはげましや評価が勤勉や努力への動機づけとして重要な意味をもち、その積み重ねが勤勉や努力をすすめる児童を育てる。
- ・まず、資料を通して続けてがんばることの大切さを感じさせる。次に、日常生活をふり返り、がんばった体験を交流し評価することでがんばったよさに気づかせる。さらに、自分のがんばっている様子を見守る大人の存在に気づかせ、これからの実践意欲を高めたい。



(道徳的実践力を高めるための工夫)

- 学習前-帰りの会では、がんばってうれしかったことを話し、みんなで賞賛し合うコーナーを持つ。また、生活科での朝顔や虫などの生き物の世話を通して、育つ喜びを実感させる。
- 資料提示-発問毎に4まいのさし絵(①おかあさんとよしこ②さんぼに行くのがいやなよしこ③コロのところへ行くよしこ④コロとさんぼに行くよしこ)を提示する。また、動作化の際、主人公への同化を図るために、コロのぬいぐるみを準備する。
- 話合い-話す人を見て、うなずく・返すなどの反応をしながら聞くことを大切にする。また、全員が自分の考えを話す場をもつ。
- 終末-児童の発達段階から、実践意欲を高めるためにおうちの人からの一言メッセージを聞き合う。
- 事後-これからの日常生活で児童が努力を要しそうな学習(水泳・ひき算の習得など)や、当番活動や係活動などへつなげる。また、学習前と同様に、帰りの会でのコーナーを継続し、学級の友だちとはげまし合いながら、実践していこうとする意欲を育てる。

6 他教科・領域等との関連

月	教科・領域等	道徳の時間	生徒指導三機能との関連
5月	<p>運動会（学校行事） ・初めての運動会でのいろいろな演技や競技に力いっぱい取り組んだり，最後までがんばったりする体験をする。</p>	<p>身の回りのことを自分で 1－（2） ・自分でやらなければならない勉強や仕事は，しっかりと行う。</p>	<p>自己決定の場については，自分でできそうな仕事や勉強を決め，今よりできることを増やしていこうとする態度を育てる。</p>
6月	<p>せわをしよう（生活科） ・あさがおの水やりや観察を続ける。</p> <p>係の役割（学級活動） ・学級で飼っている生き物に親しんだり，世話をしたりする。</p>	<p>本時 やるべきことはしっかりと 1－（2） ・自分がやらなければいけないことはしっかりと行い，何事にも粘り強く取り組む心情や態度を育てる。</p>	<p>共感的人間関係の育成については，がんばってよかったことを聞き合うことにより，友だちのがんばりをあたたかく受けとめることができる</p> <p>自己存在感を与えることについては，周囲の大人からの見守りを感じ，がんばる自分を認め，さらに実践していこうとする心情を育てる。</p>
7月	<p>みずあそび（体育） ・くり返し活動することで水遊びに慣れ，もぐったり，浮いたりできる。</p>	<p style="text-align: center;">能美中学校区 めざす子ども像 自分がすき，友だちがすき，地域がすきと言える子ども</p>	

7 本時のねらい

自分がやらなければいけないことはしっかりと行い、何事にも粘り強く取り組む心情や態度を育てる。

8 指導過程

	学習活動と主な発問	予想される児童の意識の流れ	指導上の留意点 (○) や評価 (※)
導入	<p>1 飼ってみたい生き物について話す。</p> <p>○ 飼ってみたい生き物がありますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・かわいいハムスターを飼いたいな。 ・うちでは犬を飼っているよ。 	<p>○自由に思いを出し合うことで、話したい雰囲気をつくる。</p> <p>○うなずき、共感的に聴く。</p>
展開前段	<p>2 資料「コロのさんぽ」を聞き、主人公よしこの気持ちを中心に話し合う。</p> <p>○ おかあさんが「いいよ。」と言ったとき、どう思ったでしょうか。</p> <p>○外に冷たい風がふいているとき、よしこはどんな気持ちになったでしょうか。</p> <p>◎ワンワン鳴いているコロを見て、よしこはどんなことを考えたでしょうか。</p> <p>○よしこは、どうしてうれしそうなお顔をしているのでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・うれしいな。 ・おねえちゃんみたい。 ・がんばってさんぽするぞ。 ・さむいなあ。ねむいなあ。 ・コロとさんぽに行くのは、いやだなあ。 ・すぐに行かなくてごめんね。 ・待ってたんだね。ごめんね。 ・私を呼んでいたんだね。 ・コロとさんぽできてうれしいな。 ・コロがうれしそうだからよかった。 ・がんばってさんぽしてよかったな。 ・やっぱり、毎日つづけよう。 	<p>○教師がおかあさん役になり、よしこのうれしい気持ちを児童に言わせることで、よしこの気持ちに共感させる。</p> <p>○寒いときの気持ちに共感させることで、よしこの気持ちに共感させる。</p> <p>○よしこになって、小屋の前のコロに話しかける活動を通して、よしこの気持ちの変化に気づかせる。</p> <p>○さし絵のよしことコロの表情に着目させ、よしこの心情を想像させる。</p>
展開後段	<p>3 自分の生活をふり返る。</p> <p>○やらないといけないことややると決めたことを続けたことはありますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・朝顔の水やりをがんばったよ。朝顔が大きくなったよ。 ・ひらがなの練習をがんばったよ。いい字が書けたよ。 ・給食の台ふきをがんばったよ。台がぴかぴかになったよ。 	<p>○まず、全員に想起したことを伝え合う場を持つ。</p> <p>○がんばったよさを「そうしたらどうだった？」で引き出す。</p> <p>○発言一つ一つに肯定的な受け止めを返し、がんばろうとする気持ちへの価値づけを図る。</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ・早寝をがんばったよ。自分で起きられるようになったよ。 	<p>※日常生活をふり返り, がんばったことやがんばったよさを話すことができたか。(発言)</p> <p>(共感的人間関係の育成)</p>
終末	4 おうちの人からの一言メッセージを聞く。(お手紙)	<ul style="list-style-type: none"> ・うれしいな。見てくれたんだね。 ・これからも, がんばるぞ。 ・がんばったら, いいこといっぱいだ。 	<p>○がんばっている自分を見守っている人に気づき, これからの日常生活での実践意欲を高める。</p> <p>(自己存在感を与える)</p>

9 板書計画

